

Symbiosis — 相利共生 —

～猫の家に住む～

大竹研究室

01712087 白澤 賢

1. はじめに

猫。それは一緒に暮らしているだけでも、幸せと癒しをもたらしてくれる存在である。近年では、猫と一緒にいるだけでも健康効果があることも明らかになっている¹⁾。

本計画では、人にとって素晴らしい存在である猫と暮らし、大学生活の充実化を図る。

しかし、ペットを飼いたくても1人暮らしだと飼えないという人もいる。そこで、茨城県つくば市にある「ウェルネスシティつくば桜」の分譲地の一面に『筑波大学に通う学生向けの猫と暮らすシェアハウス』を計画する(図1)。シェアハウスにすることで住民と協力して猫を飼うことができ、さらに猫を通して、交流関係を築いたり、情報交換などを行ったりすることができる。大学生向けにするメリットとして、毎年必ず新入生が入ってくるため、入れ替わりで飼うことができる。

また猫は、認定NPO法人「動物愛護を考える茨城県民ネットワーク(CAPIN)」^{注1) 注2)}によって保護されている猫を引き取ることとする。

2. 猫×建築

1) コンセプト

コンセプトは「猫の家に人が住まわせてもらっている」。猫を中心とした設計とし、室内飼育だが、猫の能力を存分に発揮できるような空間を提案する。

2) 猫の居場所

猫は特定の居場所を作ることが少なく、自分で快適な場所を探し、太陽の向きや風の入ってくるような場所の変化に応じて、移動していく動物である。したがって、特定の猫のエリアを作るのではなく、家の中で快適になるエリアを多く設け、猫が自由に歩き回り、快適な空間を探せるようにする。

3) 猫の家(図2)

野生の猫は街の中全体を住処としている。塀の上や軒下、さらに室外機の上など、決して猫のために作られたものではないが、猫はそれらを利用し、快適な空間を見つけ出すのが得意である。現在、猫は室内飼いが推奨されているが、本来は外で暮らしていた動物である。そこで、街の縮図をそのままトレースし、家の中に小さな街(=猫の家)を作る。

4) 猫と人のシェア(図3)

シェアは人同士だけではなく、猫ともシェアしているとも言える。そこで、猫の立面的な居場所として作った場所を、棚としてシェアさせてもらうことを考える。猫に飽きさせないための機能として、壁面に等間隔に棚受け用の穴を開け、猫が居場所や通路として使う場所、そして人が使う棚の場所が自由自在に動かせるようにする。

3. おわりに

猫と一緒に暮らしていると、自然と生活が豊かになる。しかし現在、ペットに関する最も深刻な問題として、殺処分が挙げられている。本計画では、猫との暮らしを軸とし、猫のための家を計画した。家は本来、人が暮らすためのものである。それを敢えて猫目線で考え、猫にとって快適な空間を作ることにより、猫たちへの恩返しになることを望む。

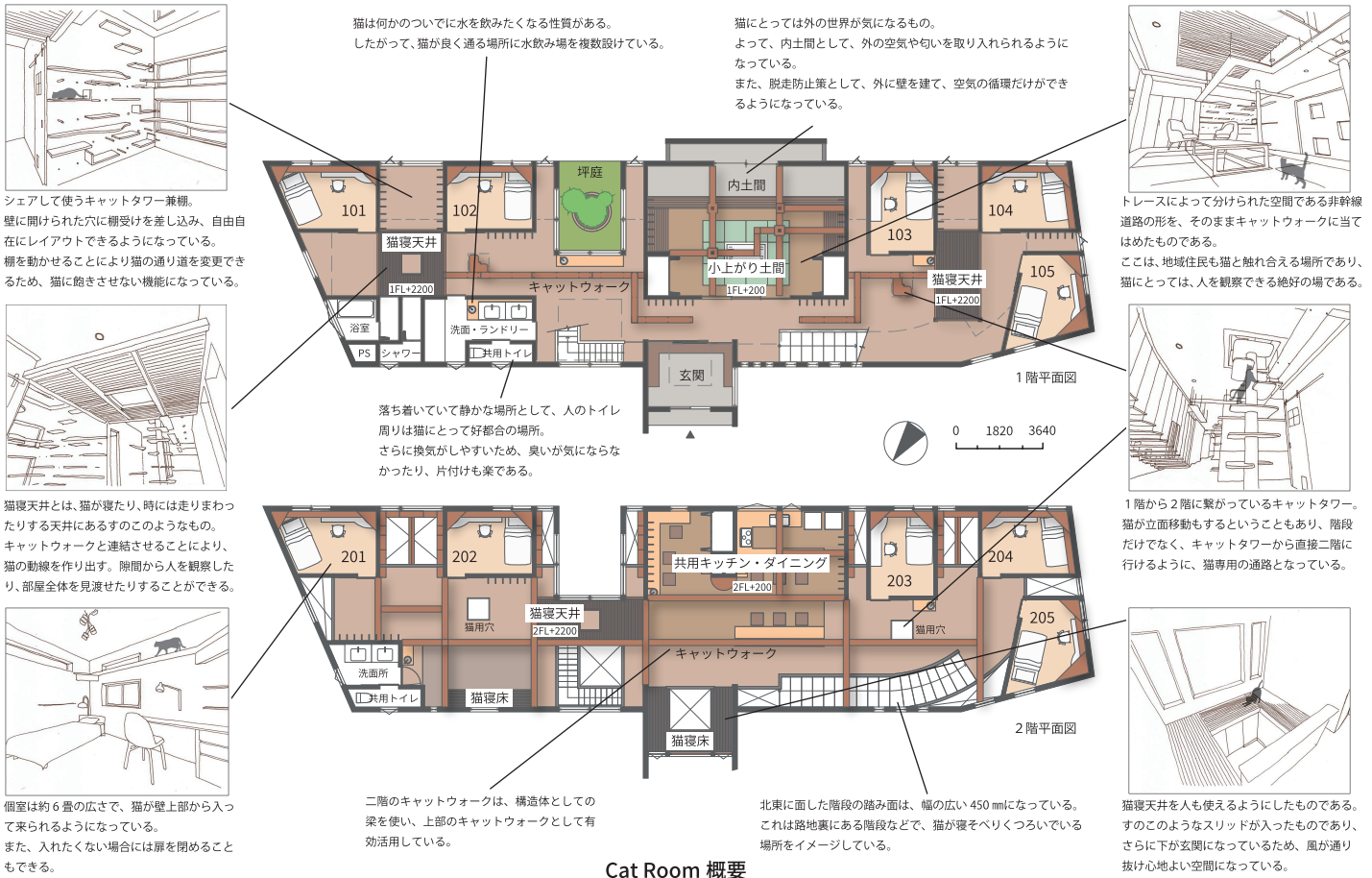
【注】

注1)動物の権利擁護を推進し、殺処分される動物の数を減らし、人も動物も快適に共生できる町づくり及び環境の保全することを目的とする団体。

注2)筑波大学の学生サークルと協力し、仔猫の保護譲渡を行っている。

【参考文献】

1) 永澤 巧, 人と猫の関係に関する行動生理学的研究, 動物臨床医学 28(2), 2019

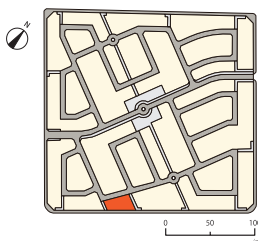


Cat Room 概要



図1. 周辺敷地及び計画地

ウェルネスシティつくば桜
敷地概要



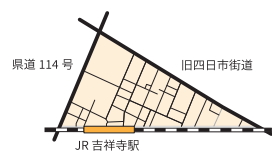
敷地面積

455.32㎡ (137.64坪)

用途地域

第一種低層住居専用地域

吉祥寺エリア



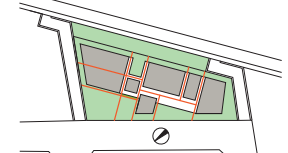
吉祥寺は地域猫活動を推進している他、ねこ祭りが開催されるなど、猫と共生できる街作りを行っている。
これに倣い、野良猫の多いつくば市で猫と共生できる街作りになるきっかけをつくる。

幹線道路を抽出



幹線道路として使われている道路を抽出。
抽出した道路は人や猫が使う道であるが、猫は比較的に車や人通りの少ない非幹線道路付近を住処とすることが多い。

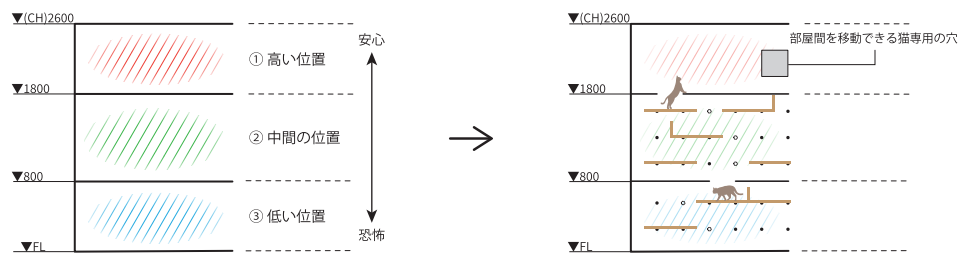
猫の家(小さな街)をトレース



抽出された道路を移動域、そしてそれらによって区切られたエリア(区画地)が居室等の各要素になる。

図2. 猫の家

猫の3つの居場所



猫がXY軸(平面)だけでなく、Z軸(立面)も移動域として使うことから、壁面に立体的なエリアを設ける。

- ①高い位置 (1800~2600mm)
→安心して居られる高さ・部屋全体を見渡せる高さ
- ②中間の位置 (800~1800mm)
→人を観察する高さ・人と触れ合える高さ
- ③低い位置 (0~800mm)
→人を見上げる高さ・すぐに身を隠せる高さ

分類された3つの居場所について、①は主に平面移動するために使う場所、②及び③には猫に飽きさせない機能を付加されている。

300mmグリッドで壁に棚受け用の穴を設け、自由にキャットタワーのレイアウトができる。
特定の居場所を作ることが少ない猫にとって、いつもと違う通路ができることこそが、日々の生活を楽しむ要素の1つになる。

図3. 猫とのシェア